

前回の協議要旨

令和2年8月25日 教育委員会教育政策課

前回の協議要旨（大綱のあり方）

項目	ご意見	反映
大綱のあり方	義務教育だけでなく、生涯教育を含めた 岐阜市民全体を対象とした教育大綱 とするべき。	・大綱案に 詳細説明を付記
	岐阜市教育振興基本計画における具体的な施策は、教育大綱の内容と密接に関係を有するので、両者の 連動を意識 するべき。	
	いじめ重大事態を背景とした 命と人権の大切さ がこの答申のベースにあることを理解した。	
	大綱改定にあたり、 継続すべきところ変えていくところ はどこか考えるべき。	
	学校現場においては、 子どもが最優先 であることを明記するべき。	
	大綱の方向性が、 先端教育から心の持ちようを重視する内容 に変わると感じる。	
	相互承認やワクワク感、自己認識など、抽象的、概念的な言葉が多く、教職員や保護者が何をすればよいのかわかりづらいが、 丁寧な説明があれば理解できる 。	

前回の協議要旨（基本方針）

項 目	ご意見	反映
基本方針	子どもたちが自立していくために必要な 自己肯定感の醸成 、今後の共生社会に必要な 他者理解の重要性 を言わんとした内容だと理解した。	・ 大綱案に詳細説明を付記
	「自由の相互承認の感度を高める」という方向性には 大きく賛同 する。	
	ポイントとなる点を共有するためには、 わかりやすい表現にするとよい 。「自由」という言葉のイメージだけで捉えられてしまうのではないか。	
	「自由の相互承認」という言葉を学校現場へすぐに浸透させることは難しいかもしれないが、その意味するところを理解し、 学校の教育目標とこういうところが繋がっている という視点からアプローチできるのではないか。	
	「 生きる力 」（学校生活における「生きる力」、将来必要となる「生きる力」、家庭・地域社会における「生きる力」）をつけさせることが必要である。	
	「自由の相互承認の感度を高める」は聞きなれない表現だが、その分皆で共通認識を作り上げていく必要がある、その中で それぞれの心に刻まれていく のではないか。	

前回の協議要旨（目指す子どもの姿）

項 目	ご意見	反映
<p>目指す 子どもの姿</p>	<p>多様な学びの場を我々がこれからどう用意していくかが問題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大綱案に反映 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生命の尊厳を理解 ・ 他者との協働・信頼 ・ 幸せな未来をつくりだせる力 ・ 命の尊厳の理解等を深める ・ 学校形態・学び方の多様化
	<p>「子どもファースト」はどの子も幸せになってほしいという思いだと理解している。</p>	
	<p>「豊かな心」（他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心）を育むことが必要である。</p>	
	<p>もっと仲間や大人を頼ってもいいということもエッセンスとして盛り込めないか。</p>	
	<p>規範意識を醸成し、その上で、自分なりに将来の夢を持ち、果敢に挑戦する勇気を持ってもらいたい。</p>	

前回の協議要旨（目指す学校・教職員の姿）

項 目	ご意見	反映
目指す 学校・ 教職員の姿	<p>教員は、子どもたちや保護者から尊敬されるためにも、専門性を日々磨き、高める努力をする必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 大綱案に反映・ 教職員の負担軽減・ 教職員の資質能力向上
	<p>子どもたちの多くは不安を抱えている。そういった不安を教職員に相談したいと思っても、教職員が多忙であると、子どもたちはその様子に遠慮してしまい、声をかけづらい環境になっているのではないか。教職員の多忙が様々な問題の根幹であると考えられる。</p>	

前回の協議要旨（目指す家庭・地域の姿）

項 目	ご意見	反映
目指す 家庭・地域の姿	<p>教育基本法の第10条（家庭教育）には「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有する」と明記されている。また同法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）において、地域も教育に対して、役割と責任を有すると明記されている。改定される大綱には、家庭・地域が学校の協力者ではなく、子どもの教育に役割と責任を有する当事者であると明記してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 大綱案に反映<ul style="list-style-type: none">・ 教育における家庭・地域の役割と責任に対する意識の向上

前回の協議要旨（施策に係る意見 子ども）

項目	ご意見
子ども	学校現場は、 深い学びについて試行錯誤 をしている最中ではないか。 ツールやノウハウ、環境 など今後も試行錯誤が必要である。
	児童生徒、教職員、家庭がタブレットというツールを使って 双方向のコミュニケーション を行えるようにする必要がある。ICT教育において、全国をリードできるような、 フロントランナー でありたい。
	コロナ禍の臨時休業中、ICTが個別に学習を進めるための環境を整える際に大きな役割を果たした。この機会に、 個に応じた学び を推進するための 教材の提供やシステムの構築 をする必要がある。
	チャレンジする子どもに対する サポート も必要である。
	小中学生は 知識や教養をインプット し、様々な年代や職業の大人からの刺激的な話を聴く機会を設けるなど、 多様な経験を積ませる ことが大切ではないか。その先に主体的な判断が出てくるものではないか。
	タブレットを活用するにあたっては、子ども 一人ひとりの学びの状況を可視化 された状態で教員が受け取り、それをもとに 一人ひとりへ気を配れる ようにすることが重要である。ベネッセ教育総合研究所との実績を活かしていきたい。
	タブレットとアゴラを使った ハイブリットな学び が重要である。アゴラは主体的で対話的な深い学びを実現する重要な場である。

前回の協議要旨（施策に係る意見 学校・教職員）

項目	ご意見
学校・教職員	<p>多様な学びを提供するためには、現在の学校現場の姿をしっかりと把握し、整理することが必要である。子どもファーストを前提とした教職員の業務の簡素化と外部委託の導入、授業の多様化に対応した教職員の職務分掌と時間配分の再構築、研修プログラムの見直しなどが必要である。</p>
	<p>会社で例えると、教育委員会はスタッフ業務であり、スタッフ業務とは、現場である学校に対するサービス部門である。教育委員会は学校現場にサービスをしっかりと提供できる体制になっているのか。</p>
	<p>導入するタブレットを活用し、業務の簡素化や削減を行ってはどうか。</p>
	<p>相対評価が絶対評価に変わったことで、評価に要する時間が格段に増えた印象がある。導入するタブレットを活用して改善していきたい。</p>

前回の協議要旨（施策に係る意見 家庭・地域）

項目	ご意見
家庭・地域	<p>学校ではなく地域が主体となって実施した方がいいことはあるので、役割分担をしっかりと取り組むことが大事である。</p>
	<p>コミュニティ・スクールの取組は地域によって差がある。コミュニティ・スクールの連絡協議会などをつくってお互い刺激し合えるとよい。シニア層、学生を取り込むことも有効である。</p>
	<p>子どもたちの引き出しを増やしていく人材やプログラムは今後も必要であり、それを学校単位ではなく、教育委員会などでリスト化し、紹介できるとよい。</p>
	<p>コミュニティ・スクールの活動がもっと活発になり、地域の人々が子どもたちに岐阜の良さを説明するなどの機会が増えることによって、子どもたちのシビックプライドも上がっていくのではないかと。</p>